

家畜衛生広報

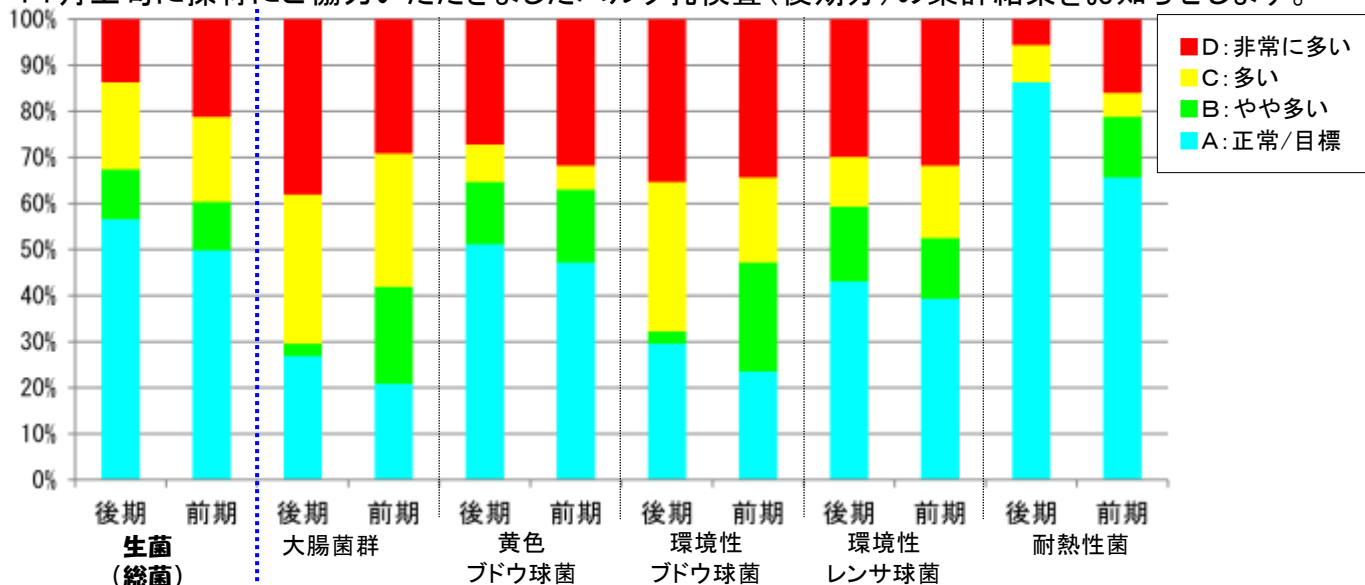


ながの

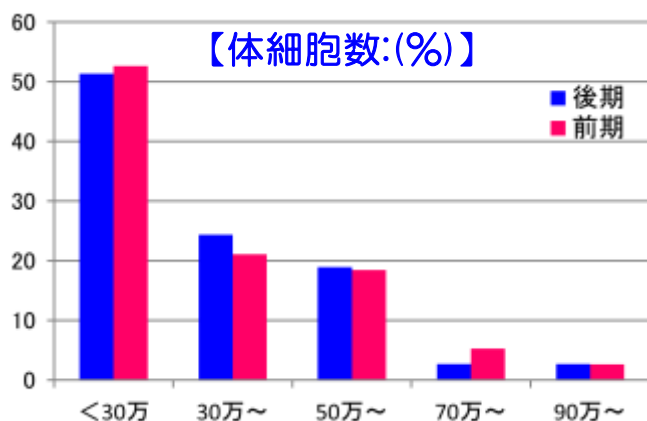
長野家畜保健衛生所
 北信家畜畜産物衛生指導協会
 〒380-0944 長野市安茂里米村1993
 Tel 026-226-0923 Facs. 026-227-2665
 E-mail:nagakachiku@pref.nagano.lg.jp

平成 29 年度 酪農生産性向上対策事業における バルク乳検査結果(後期)について

11月上旬に採材にご協力いただきましたバルク乳検査(後期分)の集計結果をお知らせします。



全項目で前期(6月検査)より後期検査は、正常(目標)のA割合が大きくなっています。一方、大腸菌群・環境性ブドウ球菌は、D(非常に多い)割合が、やや増加傾向でした。



黄色ブドウ球菌SAの検出は、後期が前期より少ない傾向ではありますが、約半数で見られました

体細胞数は、参考値ではありますが、30万/ml以上を示す農場は前期・後期ともに約半数見られました

- SAは、伝播力が強く、難治性で、体細胞数増加の要因となります
 →搾乳順序の変更、乾乳期治療、計画的な淘汰等 を検討しましょう
- 環境性による細菌(大腸菌群、環境性ブドウ球菌・レンサ球菌)は、7割強の農場が、B から D 判定を示していました
- 耐熱性菌は少ない傾向でした
- 真菌についてグラフは示していませんが、約1割の農場から検出されました
 →搾乳手順や飼養環境の衛生状態の指標となります
 牛体、牛床を衛生的に保持し、乳頭清拭、的確なディッピングなど
 日々の作業手順を再確認しましょう



信州で学ぼう

消毒は伝染病予防の第一歩
 まずは踏み込み消毒槽を畜舎に置きましょう